

水産海洋地域研究集会

第41回 「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウム
ー開放型湾における里海の創生と相模湾漁業の持続についてー

日 時：2017年10月20日（金） 9：30～15：00
場 所：小田原市生涯学習センターホール
共 催：（一般社法）水産海洋学会，（公財）相模湾水産振興事業団，小田原市
コンビナー：平野敏行（東大名誉教授），松山優治（東京海洋大名誉教授），武井 正・岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団），杉浦暁裕（神奈川県水技セ）

開会の言葉：岩田静夫（（公財）相模湾水産振興事業団） 9：30～10：00
挨拶：大関芳沖（水産海洋学会長）
加藤憲一（小田原市長）
武井 正（（公財）相模湾水産振興事業団理事長）

座 長：鎌谷明善（東京水産大名誉教授）・杉浦暁裕（神奈川県水技セ）
基調講演
里海概念の提唱とその展開 10：00～11：00
柳 哲雄（九大名誉教授，EMECS センター）

話 題
1. （公財）相模湾水産振興事業団が取り組んできた里海に関わる事業について 11：00～11：30
武井 正・川崎秀一（（公財）相模湾水産振興事業団）
・・・・・・・・・・昼食・・・・・・・・・・ 11：30～12：30

座 長：一色竜也・村上哲士（神奈川県水技セ 相模湾試）
2. 神奈川県における栽培漁業と里海について 12：30～13：20
（1）（公財）神奈川県栽培漁業協会が取り組んできた放流事業 鈴木秀雄（県栽培漁業協会）
（2）東京湾・相模湾における市民との環境再生の取り組み 工藤孝浩（神奈川県水技セ）
3. 下水処理水の海域放流影響調査の推移と今後の取り組み 13：20～14：00
大橋幸雄（流域下水道事務所）

総合討論 14：00～15：00
座 長：松山優治（東京海洋大名誉教授）
（1）現場からの意見
① 山崎哲也（二宮定置網漁業），② 本田正実（刺網漁業），③ 小林伸光（遊漁船業）
（2）討論

閉会のことば：堀内昌詔（（公財）相模湾水産振興事業団）

開催趣旨：1977年にスタートした本シンポジウムは、本年度で41回を迎える。相模湾を取り巻く自然環境は、高度経済成長期から成熟期の巨大な波に翻弄され衰退した相模湾の漁業環境は、経済成長が上限に達した1990年頃から変わり始め、2000年頃から若手漁業者の増加、地域社会における漁業評価の高まりなど、徐々に変化してきている。40回シンポジウムでは、開放型内湾の三陸志津川湾を例に「里海」の実現に向けた取り組みについて講演していただいた。今回は「里海」を定義された柳哲雄氏（九大名誉教授）から里海概念を学び、事業団がこれまで行ってきた「環境保全と水産振興」に関連する活動、魚介類の放流と効果、下水処理水の漁場環境への影響などを取り上げ、開放型の相模湾における「里海」のあり方を議論する。総合討論では現場で生産活動を行っている相模湾の漁業者がもっているさまざまな「里海」の知恵を学び、水源の森林域ー流域ー沿岸域に至る住民、都市住民を含めた人々と「里海」についての理解を共有し、相模湾漁業の持続について議論する。